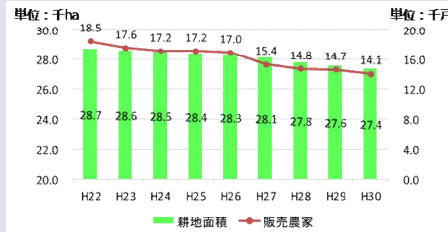


スマート農業の実証と実装支援

背景・課題

- 担い手の高齢化・減少により労働力が不足、**特に中山間地域では深刻**
- 産地の維持・拡大には、さらなる収量・品質向上が不可欠
- 土地利用型作物では栽培管理等の情報共有、引継ぎが煩雑で困難



取り組みの方向性

- 産地課題の解決に向けた**スマート農業** (IoT・AI・ロボット等の先端技術の活用) の**社会実装を継続的に支援**
 - ①労働生産性の向上(省力化、効率化、作業負担の軽減)
 - ②単収の向上、高品質化(適切な肥培管理・防除や環境制御、適期収穫)
 - ③情報管理の一元化(ほ場管理情報の集積)

取組内容

水稲、露地栽培品目 (ユズ、ショウガなど)

①労働生産性の向上

- 自動化、半自動化機械の導入:四万十町 (自動走行トラクター、直進キープ田植機、自動草刈機)
- 作業負担軽減機器の導入:高知市、土佐市、本山町 (ドローン、ショウガ掘取機、水稲自動水管理(検討中))

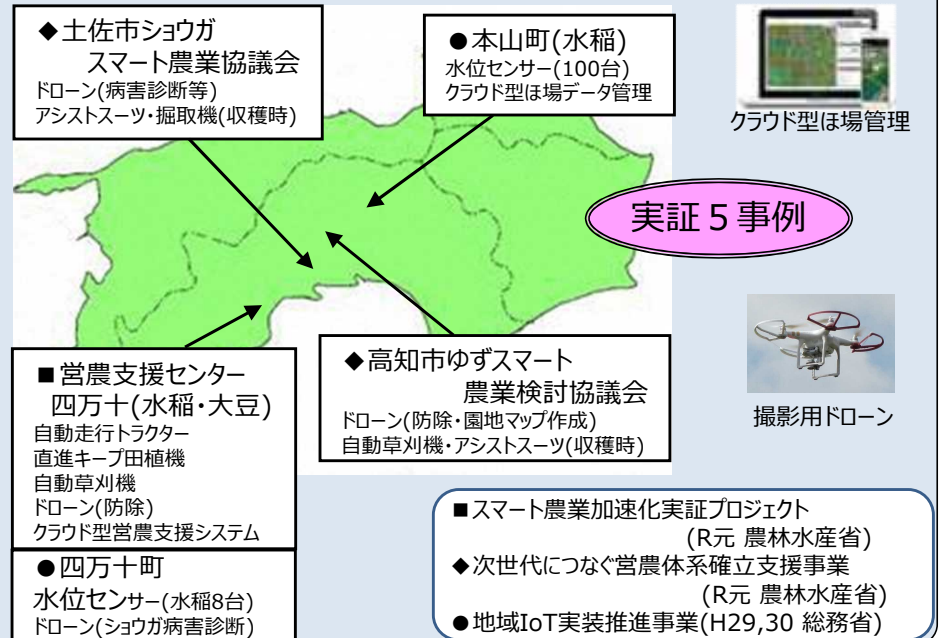


②単収の向上、高品質化

- 水位センサー:本山町(適正な水管理によるコメの品質向上)
- リモートセンシング技術:土佐市(ショウガの病害早期診断(開発中))

③情報管理の一元化

- ほ場地図の作成:高知市(ドローン活用による圃地マップ作成)
- ほ場管理情報の集積:四万十町(生産管理システム)



- スマート農業加速化実証プロジェクト (R元 農林水産省)
- ◆次世代につなぐ営農体系確立支援事業 (R元 農林水産省)
- 地域IoT実装推進事業(H29,30 総務省)

産地・品目に合わせた技術を普及

<水稲>

- 各種スマート農業機械の導入 (直進キープ田植機、自動走行トラクター、食味計付収量コンバインなど)
- ドローン防除面積の拡大
H30:66ha→R5:700ha→R11:1,500ha
- 自動水管理による省力化
- ほ場履歴を踏まえた栽培管理



<露地野菜・果樹・茶 他>

- 各種スマート農業機械の導入 (自動草刈機、アシストスーツなど)
- ドローン防除面積の拡大
- ドローンの活用拡大 (リモートセンシングによる生育・病虫害診断、マッピング)
- ほ場管理システムの活用

<活用できる補助事業>

- 国事業
 - ・スマート農業加速化実証プロジェクト
 - ・次世代につなぐ営農体系確立支援事業
 - ・産地パワーアップ事業
- 県事業
 - ・集落営農支援事業
 - ・こうち農業確立総合支援事業